

主 題：神の教会とされたあなた

聖書箇所：コリント人への手紙 1章1-9節

私たちは時々、「自分の内からだけでも、罪がなくなればどんなに良いだろうか？」と考えます。と言いは、自分が経験する悲しみや苦しみのほとんどは、自分自身の罪から来ていることを知っているからです。他人に認めてもらえない、（＝分かってもらえない）辛さ、すぐに神様に対する信頼を失ってしまうこと、他人を裁いてしまうこと、自分勝手な願いを神に申し上げてそれが叶えられないでイライラしてしまうこと…。それらがなければ、どんなにか楽で、平安な人生が過ごせるでしょう…。私たちは救われた後でもいろいろな問題を経験します。そのような問題のただ中にいる時は、辛く悲しく、やりきれない思いになりますが、私たちはそれによって、神の御心が示され、罪が矯正され、成長していきます。

今日からしばらく、コリント書の一部を何度かに分けて、少しずつ、学んでいきます。コリントの教会も多くの問題のただ中にありました。しかしその中であって、自分たちの罪（＝自己中心や間違った考え、かたくな）が示されたことによって、コリントの教会は変えられていったのです。私たちもそれを学ぶことによって変えられて行くようにと願いましょう。

☆「教会」とは、どのようなものなのでしょうか？

パウロは、教会とはどういうところなのかということについて教えてくれています。私たちがそれら学び、正しい「救いに関する知識」と「教会観」について知り、私たちが神様の前により正しく生きることができるようになるためです。

I・神に選ばれた者たちである（1-3節）

教会とはどのようなものなのか？まずそれは、「神様によって選ばれた者たち」の集まりであると、パウロは教えています。

2節『コリントにある神の教会へ。すなわち、私たちの主イエス・キリストの御名を、至る所で呼び求めているすべての人々とともに、聖徒として召され、キリスト・イエスにあって聖なるものとされた方々へ。』この「すなわち」とは教会とはどのようなものを説明しようとしています。この手紙は、コリント教会に宛てて出されたものですが、その「教会」ということばを、パウロはこのように言い換えて、説明しています。

⇒(1)『主イエス・キリストの御名を、至る所で呼び求めているすべての人々』。

ローマ10：12-13には『ユダヤ人とギリシヤ人との区別はありません。同じ主が、すべての人の主であり、主を呼び求めるすべての人に対して恵み深くあられるからです。「主の御名を呼び求める者は、だれでも救われる。」のです。』とあります。ここで言われている「イエスの御名を呼び求める」者とは誰のことでしょうか？クリスチャンたちのことです。

(2)『聖徒として召され、キリスト・イエスにあって聖なるものとされた方々』

この「聖徒」や、「聖なるものとされた…」というのも、救われた人たちのこと（＝クリスチャン）を指しています。

⇒教会とは建物のことではない。建物や場所のことを指すのではなく、イエスを信じ、それによって救われた「人間たち」のことを指すのです。イエスを真の、唯一の神であり、救い主と信じている一人一人が「教会」なのです。

2節『コリントにある神の教会へ。…すべての人々とともに、聖なるものとされた方々へ。』。パウロは宛て先をただ「コリント教会」とは言わずに、『コリントにある神の教会』と表現しています。イエス様を信じ、その名を呼び求め、『聖なるものとされた』人たちは、世界中『至る所』にいます。その人たちはすべて、場所は違っていても同じ『神の教会』であり、イエス様を信じ救われている者は、皆、その『神の教会』の一部分なのです。パウロはコリント教会に、どうしてもそのことを話したかったのです。それは、10節以降を見ると分かるように、コリント教会には「分裂・分派」の問題があったからです。マルコ3：24-25でも『もし国が内部で分裂したら、その国は立ち行きません。また、家が内輪もめをしたら、家は立ち行きません。』と教えるように、教会内に分裂や内輪もめがあっては

ならないのです。だから、パウロはそのことを後になって、イエス様を信じ救われた者は皆、「キリストのからだ」の一部分であるであるという、「共同の（見えない）教会」についても話すのです。

⇒真の教会とは、唯一である。

本当に救われた人たち全員がもれることなく、属している教会。例え、場所は離れていようと、皆、キリストにあって、同じ『神の教会』に属しているのです。教団や教派のことを言っているのではありません。また、教会員になっているかどうかということでもありません。どこの教団、教派に属していようと、またバプテスマを受けていようと、受けてまいと、コリントにいようと、エペソにいようと、日本にいようと、神様によって救われた者は皆、その目には見えない『神の教会』なのです。

「唯一の教会」というと、よくカトリック教会が言う、マタイ16：18『…あなたはペテロです。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てます。…』というみことばから、このペテロこそが教会の基礎であり、教会の地上のかしらはその後継者でなければならない。それ故、ローマ・カトリック教会こそが唯一の正しい教会である、という話を皆さんもお聞きになったことがあると思います。聖書はそのように教えているのでしょうか？⇒もしそうなら、ここで『岩』と訳されている単語は「男性名詞」となっているはず。しかし、実際は、「女性名詞」つまり、明らかにペテロ以外のものです。では何なのか？この少し前16節にあるペテロの信仰告白です。「あなたは、生ける神の子キリストです。」と、実は、この「告白」がギリシヤ語では、「女性名詞」なのです。ですから多くの教会では、この箇所を、「イエス様こそ生ける唯一の神であるキリスト（＝救い主）である」という信仰告白であると考えます。そして、これが教会の岩だとします。だから、私たちは今でも、ある人を教会員として迎える時に、その方の信仰告白を聞くのです。

2節『主は私たちの主である』

これがクリスチャンの信仰告白です。このイエス様こそが唯一の神であり、自分を罪から、裁きから救ってくださる救い主である」と。ユダヤ人たちが、このイエス様を「神」であると告白した時、彼らはそれが唯一の神を指し、その神様にこそ主権があることを認めていたはずです。

⇒教会とは、イエスを自分の主とした者たちの集まりである

あなたにとって、このイエス様こそが唯一の神様であり、主人となっているのでしょうか？ヨブはこう言います。ヨブ記31：24－28『もし、私が金をおのれの頼みとし、黄金に向かって、私の拠り頼むもの、と言ったことがあるなら、あるいは、私の富が多いので喜び、私の手が多くの物を得たので、喜んだことがあるなら、あるいは、輝く日の光を見、照りながら動く月を見て、私の心がひそかに惑わされ、手をもって口づけを投げかけたことがあるなら、これもまた裁判にかけて罰せられる罪だ。私が上なる神を否んだためだ。』。この神様こそが、最高の、唯一の、信頼に値する方です。

パウロは言います。教会とは、そのように、イエス様を自分の「主とした者たちの集まり」なのだと。と言うのは、パウロはこの後、いろいろな厳しいことをコリント教会の人たちに、問いただす必要があったからです。しかし、本当に彼らが救われていて、神を第一としているなら、間違いなく、彼らは自分の忠告に耳を傾けてくれるはずであることを、パウロは信じていたのです。

1節『神のみこころによって…使徒として召されたパウロ』

2節『すべての人々とともに、聖徒として召され』

確かに神様は、クリスチャンにとって主権者ではありますが、それは、クリスチャンだけに留まるものではありません。神様は、いつでも、相手が誰であろうと主権者です。なぜなら、神様はすべてのものの創造者であり、それらを維持してくださっておられる方だからです。そのような神様が、パウロのことを『使徒として』召されたように、あなたのことも召してくださったのです。エペソ1：4にある通りです。『すなわち、神は私たちを世界の基の置かれる前からキリストのうちに選び、御前で聖く、傷のない者にしようとされました。』。私たちの中の誰一人、神様から選ばれずに、救われた方はいないはず。神様はすべてのこと、過去も、現在も、未来も、すべてのことをご存知だからです。

⇒ 主権者 である神様によって、 選ばれた者たちのこと！

実は「教会」というギリシヤ語は、「～から」ということば（前置詞）と「（呼ぶ）」ということば（動詞）から成っていて、ある場所から、「呼び出された者」、「召し出された者」という意味なのです。しかし、だからと言って、救いをはじめ、私たちの信仰生活の歩みの部分も、神様のご意志だけによるのかということそうではありません。すべての選択の自由は私たちであり、それらの責任も私たちにあることが教えられています。

『聖（徒）』の語源（もともとの意味）は？

ここで、『聖徒』（2節）とか、『聖なる』（2節）と訳されている言葉は、もともとは「分離」、つまり「分けること」を意味しました。そして、それがやがて、神様の特別なご用のために「分けられ」、そのためだけに用いられていくようになっていった時に、それが「聖い」とか、「聖」ということを表わすようになっていったのです。～の中から特別なものとして分ける、大切なものとするという意味です。私たちクリスチャンは神様によって、この世から選び分けられて、神様の所有物となったのです。そんな私たちが、神様に導かれて、用いられていく時に、だんだんと聖いものに変えられていくのです。他の人に比べて、私たちが聖いから救われたのではない。神によって救われたから、聖いものとされ（立場・義認）、聖くなっていくのです。

II・神に全ての必要を与えられている（4-7節 a）

教会とはどのようなものなのか？⇒次に、パウロが教えているのは、「神様によって、全ての必要が与えられている者たち」であるということです。

4節『あなたがたのことをいつも神に感謝しています』と、パウロが常に神様に感謝していたことが書かれています。パウロは、コリント教会に関することで感謝しています。しかし、コリント教会は問題だらけの教会でした。分裂・分派の問題、不品行、近親相姦、信者が信者を訴えるというような状況、結婚の問題、霊の賜物、復活を否定する者たちといったようなことがありました。そして、パウロとの関係も、決して良好とは言えませんでした…。しかし、パウロがそんな中であっても、神に感謝を捧げることができたのは、彼が目に見える現実（状況）から目を背けているからではなく、この目に見える現実の中であって、生きて働いてくださっている神の恵みに目を向けているからなのです。

どういうことかと言いますと、その当時のコリント教会に対して神様がすべての必要を満たし続けてくださっていることに、パウロは目を向けていたのです。そのことは5節（『あなたがたは、ことばと正しい知識と正しい、すべてにおいて、キリストにあって豊かな者とされた…』）にも書かれていますし、7節にも『あなたがたはどんな賜物にも欠けるところがなく…』とあることから分かります。彼らは、明らかに神の恵みによって満ち足りていたのです。必要なものが、十分に、全てのものが与えられていたのです。

『ことば』（5節）と『知識』とありますが、これは当時のコリント教会において顕著であったのでしょう、「みことばの理解」や「預言」、「異言」といったようなことを指します。それを見たパウロは、間違いなく神様が教会のメンバーたちの中で働いてくださっていることを確信したのです。それが6節の『キリストについてのあかしが、あなたがたの中で確かになったからで…』ということなのです。コリント教会には、間違いなく神様が働いてくださっている。そんな神様が働いてくださっている教会の必要は、すべて神様が満たしてください。これがパウロの確信でした。私たちも、この教会が神様によって建てられ、守られ、導かれていることを知っています（みことばからの知識、救い、毎年の必要、神様との交わりなど）。神様は間違いなく、私たちの内におられ、私たちの必要をすべて満たしてください。私たちには何一つ、必要なもので与えられていないものはないのです！

⇒ すべての必要 が与えられている！

そうです。神様は間違いなく、私たちの必要のすべてを満たしてください。Iコリント3：21-23『すべては、あなたがたのものです。パウロであれ、アポロであれ、ケパであれ、また世界であれ、いのちであれ、死であれ、また現在のものであれ、未来のものであれ、すべてあなたがたのものです。そして、あなたがたはキリストのものであり、キリストは神のものです。』とあります。パウロであれ、アポロであれ、ケパ（ペテロ）であれ、すべては神様がコリント教会の必要のために与えられた者たちだったのです。この『世界』も、すべての『いのち』も、『死』であっても、それらはすべて、コリント教会のために動いているのです。また、ローマ8：28『神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。』と、この『神を愛する人々』というのは、コリント教会のことも含みます。

神様は、イエス様のいのちを代償としてまで、お救いになった私たちクリスチャン、神の子とされた私たちクリスチャンのことを愛し、顧みてくださっています。神様は、私たちの益のために、すべての被造物を用いてくださるのです。

III・いつも、神に期待している（7節 b-9節）

教会とはどのようなものなのか？⇒それは、「いつも、神様に、期待している者たち」であるということです。

7節『主イエス・キリストの現われを待っています』

8 節『最後まで堅く保っていただきます』

7 節後半を見ると、コリント教会の人たちが『熱心に…主イエス・キリストの現われを待っています。』とあります。聖書の多くの箇所が教えるように、イエス様は必ず、私たちを迎えに来てくださるという希望を持つように教えられています。また 8 節には、『主も、あなたがたを、私たちの主イエス・キリストの日に責められるところのない者として、最後まで堅く保っていただきます。』とあります。私たちクリスチャンは、確実に、その再臨の時に神のもとに挙げられ、神様から祝福を戴くのです。どんなに多くの問題を抱えていようと、その方が救われているなら、神様は確実に、その者を最後まで導き、保ってくださるのです。そのことは、当時、問題だらけであったコリント教会を念頭において語っているのですが、私たちに対しても同じことです。私たちの普段の歩みが、罪ある生活、神よりも自分の生活を優先して守るような生き方をする私たちであっても、神は私たちのことを常にあわれんでくださって、常に導いてくださるのです。

その根拠は、9 節にあるとおり『神は真実』であるから！です。どうしてそう言い得るのでしょうか。神様は、何一つ、うそ偽りのない方です。それは旧約聖書からの歴史を見た時にも、明らかです。その約束が何年経とうと、常に神様は真実でいてくださり、神の民を導き続けてくださいました。「信じているけれどほんとうに救われているのかな？」という疑いは不信仰です。また「神様、本当に、私に最善をなしてくださっているのですか？」と考えるのもそのとおりです。

⇒パウロはコリント教会の人々にもう一度、信仰の初めの大切な点を教えられました。神の選び、神が必要を与えられること、神に期待できるということ、私たちにはこの神に従ってゆくという責任があることも教えられています。そして、そこには神の祝福があることを覚えましょう。